

## 令和6年度川崎市再犯防止推進会議 会議録（要旨）

### ■懇談会名称

令和6年度川崎市再犯防止推進会議

### ■開催日時

令和6年7月19日（金） 午前10時30分から午後12時10分まで

### ■開催場所

川崎市本庁舎復元棟201会議室 （オンライン併用）

### ■出席者

（委員・オンライン）

野口 沙里

（委員・会場）

安藤久美子、大園 雄介、中原 康子、大津留 寿弥、鍛冶 龍男、土野 有子、  
菱沼 正文、松世 三重子、邊見 洋之、竹内 政昭、野口 泰正、岡崎 重人、  
山口 耕樹、皆川 智之

（事務局）

健康福祉局地域包括ケア推進室 菅野智宏、清水奨、野本真由美、田原慎也、松井豊太  
（傍聴者）0人

### 会議経過

#### 1 開会

#### 2 あいさつ

地域包括ケア推進室 菅野室長からあいさつ

#### 3 議題

##### （1）各団体における取組報告（公開）

神奈川県地域生活定着支援センター田村委員から資料に沿って説明。以下のとおり、出席委員から質問・意見あり。

- （大津留委員）県からの予算は増えているのか。

→（田村委員）伸びは少ない。人員も増やして欲しいが、増えない状況。

（大津留委員）特別調整は刑務所としても生命線というところがある。丁寧に引継ぎをしていきたいと思っている。今後ともよろしく願いしたい。

- （事務局）特別調整の対象とならないが、福祉的支援が必要な場合の課題など。例えば退所後の住居がないなど。

→（田村委員）退所後の住居があったとしても、本当に住めるのか、という判断をするなど、幅を持たせてみている。一般調整では、相談業務の中で対応する

こともある。

→（中原委員）一般調整の話が出たので補足。引受人や帰住地がある方は保護観察所が引受人等に協力して、一般調整として地域の福祉関係機関等と調整している。自立会などにも協力してもらっている。

- （竹内委員代理）数値については市内のものなのか。増減はどうか。

→（田村委員）市内ではなく、数値は定着支援センター内のもの。増減はコロナで減少したが、また増えてきている。

## （２）拘禁刑について（公開）

大園委員から資料に沿って説明。以下のとおり、出席委員から質問・意見あり。

- （邊見委員）拘禁刑の導入によりどう変わっていくか、効果があるか。

→（大園委員）禁固刑はほぼ形骸化。拘禁刑は、より社会復帰支援に重点を置いている。社会復帰支援が刑事施設長の責務となった。

- （田村委員）神奈川県内ではどのような準備をしているか。

→（大津留委員）特性に応じた対応。ニーズが高いのは高齢・障害。刑務作業よりも予防体操や認知機能向上のプログラムなどをメインとする集団をユニット化するなど試行している。効果は確実にあると考えている。自分で働く必要がなく、いかに社会資源とつながっていくかという指導が必要な人でも刑務作業ゼロ、ということはできなかったが、集中的に資源を投下できる。

- （竹内委員代理）被害者支援について、担当者が変わるの被害者側の立場から行くと煩わしいのでは。

→（大園委員）各矯正施設には聴取専属の被害者担当官を複数名配置している。申し出をする犯罪被害者等の御意向によっては、受刑者に伝えることもできる。また、伝達した際の受刑者の状況を被害者等に伝えることもできる。昨年12月にできた制度だが、本年5月末日までに60件ほど受理されている。

→（大津留委員）管理職と違い、被害者担当官の異動は思っていたよりも長い。

- （野口委員）現場としては刑務所から出てきた人の質は上がってくるのか。期待していいか。

→（大園委員）今後の検証として出てくると思うが、再入率は減ってきているので、現状でも効果は出てきているとはいえる。拘禁刑下においても再入率が下がることを目指していく。今後も情報共有など協力をお願いしたい。

## （３）第２期川崎市再犯防止推進計画について（公開）

事務局から資料に沿って説明。補足事項として以下のとおり。

- （鍛冶委員）再犯者率が高いという説明があったが、全国に比べても検挙者数がかなり低い。令和２年から比べると令和４年はかなり減っているの、何か市の取り組みがうまくいったのか。この辺りを検討して次期計画に入れていっても。

→（事務局）市としての取り組みだけでなく経済情勢もあると思う。どうして再犯をしてしまうのか。どういう政策があったら防げたのか、しっかり検討して

いきたい。

→（鍛冶委員）再犯者率が高いのは初犯が少ないのかもしれない。そうするとターゲットを絞ることができるかもしれない。

- （大園委員）政令市でもワンストップ型のサポートセンターなどにソーシャルワーカーを設置しているところもあるので、そういったところも参考にされるといいのでは。数値が出ると効果として見える化される。

→（事務局）サポートセンターを一部設置している区がある。保護司会協議会を通して必要経費を支援しているが、常設がいいのか、都度利用するのがいいのか、意見を聞きながら考えていきたい。

- （田村委員）保健医療・福祉サービスの提供についての効果測定はどうなっているか。

→（事務局）具体の目標が立てづらく、ほかの機関との連携強化などとなっており、1期では目標は立てられなかった。2期で目標とするかはまた検討する。

- （野口委員）更生保護サポートセンターの開設支援とあるが、現状あるものを今後どのように活用していくか。より充実させる面についても意識して欲しい。

→（事務局）今あるセンターをより効果的な場所として運用できるか検討していきたい。

→（菱沼委員）面接場所は困っているが、自分は自宅でやっている。ただ相手によって場所は変わる場合もある。面接をするのは土日や夜になることも多い。面接場所の協力について全国の自治体に法務省から通知が出ている。サポートセンターの利用として、学校に通えない子ども・保護者の相談場所として開放しようと昨年から検討している。

#### （4）その他（公開）

- （岡崎委員）ネットワークづくりの一環で、支援者同士がつながることが大切と感じている。そのきっかけの一つとして、川崎でTSネットワークが立ち上がったので、その研修会の紹介。川崎ダルク 20 周年のフォーラムがあるので、その紹介。
- （事務局）次回会議の案内。

以上